

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）

次期がん対策推進基本計画に向けて小児がん拠点病院および連携病院の小児がん医療・支援の質を評価する新たな指標開発のための研究

研究分担：上記研究の実施  
分担研究報告書

研究分担者 後藤 裕明・神奈川県立こども医療センター血液・腫瘍科部長

**研究要旨**

診療機関における小児がん医療の質を客観的に評価するための指標（QI: Quality Indicator）を策定し、医療情報管理士が中心となって QI による自施設の評価を行うことが可能かを検討した。今年度は 2019 年度の実績をもとに 31 指標項目に関する評価を行った。他の小児がん拠点病院における結果と比較して、自施設では小児がん患者の在院日数が長く、中央病理診断提出率が低いという問題が抽出され、自施設内で改善に向けた取り組みが開始された。

**A. 研究目的**

小児がん診療施設に求められる医療の質を、客観的に評価するための指標（QI: quality indicator）を策定し、QI 評価の実行可能性と有用性を、自施設での評価をつうじて検討すること。小児がん拠点病院、小児がん連携病院別に QI を策定し、施設の機能に応じた評価が可能かを検討すること。

**B. 研究方法**

昨年度までの QI 評価を参照し、拠点病院間で差がなく高いレベルで達成されている項目、評価対象となる症例数が少なく同一施設内でも年度ごとの値にばらつきが多い項目、定義が明瞭で

はなく施設間で評価方法が異なる項目、新たに加えるべき項目、についてワーキンググループ内で検討を行った。ワーキンググループでの討議を経て新たに作成された QI 調査票に基づき、実際に自施設での評価を行った。

（倫理面への配慮）

集計処理が行われた、施設ごとの数値のみを使用し、研究の実施にあたって個人情報には利用していない。すでに取得された集計数値のみを利用した非介入研究である。倫理面での問題は発生していない。

**C. 研究結果**

2018 年度の QI 評価において算定され

た指標のひとつである「同種造血幹細胞移植後 100 日以内における合併症関連死亡率」は、算定のベースとなる症例数が多くはなく、疾患の重症度などによっても合併症発生率が異なるため、同一施設内でも年度ごとの値にばらつきが見られた。このため、2019 年度の評価指標からは除外することとした。そのほか、緩和医療の提供体制については、緩和ケア研修会修了者数の調査を加える、などの修正を行い、最終的に 2019 年度指標として 31 項目が選定された。自施設においても診療情報管理士が中心となり算定を行ったが、すべての項目に回答が可能であった。

#### D. 考察

例年の QI 調査を行う中で、自施設の問題点として、各症例の平均在院日数が長いこと（ALL 患者の平均在院日数；自施設 68.6 日 vs 15 施設の平均 56.1 日）、中央病理診断提出率が低いこと（自施設 37.0% vs 15 施設の平均 57.5%）が挙げられ、いずれについても施設内で改善を目指している。このように QI 調査を行うことで、小児がん診療施設としての機能強化・改善につながることを示唆された。調査指標の見直しが行われているが、外来化学療法件数（最低 30 件～最高 428 件）、長期フォローアップ外来患者数（最低 23 件～最高 247 件）のように、施設によって大きな差がある指標もみられ、施設による定義のとらえ方が均一ではない可能性も示唆された。

#### E. 結論

小児がん医療・支援に関する QI 評価により、小児がん診療施設の機能改善が可能であり、日本の小児がん医療の質向上につながる可能性がある。評価の方法が施設によって異なる可能性がある指標もあり、指標の最適化に向けて検討を続ける必要がある。

#### F. 健康危険情報

該当なし

#### G. 研究発表

##### 1. 論文発表

発表なし

##### 2. 学会発表

発表なし

（発表誌名巻号・頁・発行年等も記入）

#### H. 知的財産権の出願・登録状況

（予定を含む）

##### 1. 特許取得

該当なし

##### 2. 実用新案登録

該当なし

##### 3. その他